

\*使用教材「3・11副読本」p30～31、高砂中防災ノートP12、特別警報資料、写真2枚

1ね ら い

日本の気象の特徴について、大雨を例に風水害についての基礎的な知識を身につけると共に自分たちの身の回りで被害が心配される場所や、非常時の持ち出し品などを考えさせる。

2 題材設定の理由

毎日の天気に関する情報は、多くのマスメディアを通して容易に得ることができる。しかし、天気をもたらす災害の内容を正しく理解していなければ、いざというときに的確な判断や迅速な避難ができない。そこで、注意報・警報・特別警報の違いについて認識させると共に、自分たちの身の回りで被害が心配される場所や避難の際に必要な物などを挙げさせることにより、防災教育の知識・技能を高めさせたい。

3 指 導 展 開 例

学習活動	時間のめやす	使用教材	留 意 点
1 「注意報」と「警報」の違いを学習する *ワークシート1を記入	2分	ワークシート	○ワークシートへの記入を通して違いを確認させる
2 「特別警報」について学習する *ワークシート2を記入	3分	ワークシート	○ワークシートへの記入後 配布資料「特別警報(気象庁)A4両面」を配布
3 (1)配布資料「特別警報」を読ませながら ワークシート3(1)に取り組みさせる もし大雨が降った場合に、災害から身を守るために大切なことを、資料「特別警報」を読みながら、表にまとめてみよう (2) ワークシート3(2)に取り組みさせる 注意報・警報・特別警報の違いについて、まとめてみよう。大雨→「3・11副読本」P30の表津波→配布資料から読み取る	15分	配布資料「特別警報」 ワークシート 3・11副読本P30 配布資料「特別警報」 ワークシート	○はじめに「特別警報」について簡単に触れてから、生徒に表(1)を取り組みさせる ○生徒に( )の内容を発表させながら特別警報の内容について詳しく学習する ○ワークシート(2)の表大雨は副読本の表(=仙台市東部が該当)、津波は配布資料を見てまとめるように指示 ○生徒に( )の内容を発表させながら違いについて学習する。
4 「局地的大雨」について 3・11副読本「2局地的大雨」を読む 2枚の写真(昨年9月に仙台に台風が来たときに撮った学校周辺)を全体に見せる。 みなさんの身の周り(通学路・家の周り・学校周辺)で大雨になった時に被害が心配される場所がありますか?グループになってお互いに情報交換をしながら、場所を記入してみよう	15分	A3版写真2枚 ワークシート	○副読本を読ませる ○グループで自分が知っている被害が心配される場所をお互いに述べ合い情報交換を行うことで危険回避に向けた情報力を高めさせる ○情報はグループで共有し、ワークシートに記入させる ○いくつかのグループに発表させる
<b>時間があれば5の学習に進む</b>			
5 非常持ち出し品のチェック 警報や特別警報が発令された場合、避難の準備や実際に避難することもあります。みなさんの家で災害に備えて準備している物を書き出してみよう	10分	高中防災ノートP12	○個人ごとに記入させる ○時間がなければ触れなくともよい